



中部大学春日丘高校 SGH課題研究「世界の現状を知り考える学習」

—「教えられる」のではなく、自ら発見する力を養い、「気づき」を「行動」へとつなぐ—

第2回 体感！ワークショップ～多様な世界と肯定的に出会おう！ 自分と世界のつながりを探ろう！

開催概要

- ◆ 日時: 2017年4月18日(火) 7時限[15:20~16:10]
- ◆ 場所: 中部大学春日丘高校 1年A組、B組、C組、本校舎2階学習室
- ◆ 指導者: NPO 法人 NIED 国際理解教育センター職員、本校教員 (=ファシリテーター)
- ◆ 第2回学習のねらい
 - ① 世界は多様であり、自分たちの知らないことがたくさんあることに気づく。
 - ② 多様な世界に肯定的に出会い、違いを楽しむ。
 - ③ 自分と他者、自分と世界は、どこでどのようにつながっているのかふりかえり確認する。

学習の流れと成果 ※「F」はファシリテーターの意。

1. オリエンテーション

- ① 第2回のねらいの説明…Fが、生徒のバインダーに綴じてある資料0-1「学習のねらいとプログラム」を基に、第1回行ったこと、第2回のねらいを説明した。
- ② ふりかえり…生徒数名は、第1回で印象に残っていること、発見したことなどを話した。

2. 多様な世界と肯定的に出会おう「ワールドクイズ」

- ① 「ワールドクイズ」…各グループに配付した「ワールドクイズ」の20問を、グループメンバーで協力して10分間で解いた。
- ② 答え合わせ…Fは解答を読み上げながら、グループで答え合わせをした。
- ③ 発表…生徒数名が「気づいたこと／言えること」を発表した。
- ④ 活動の目的…Fは「世界は多様であり、自分たちの知らないことがたくさんあることに気づくこと」、また「多様な世界に肯定的に出会い、違いを楽しむこと」を伝えた。

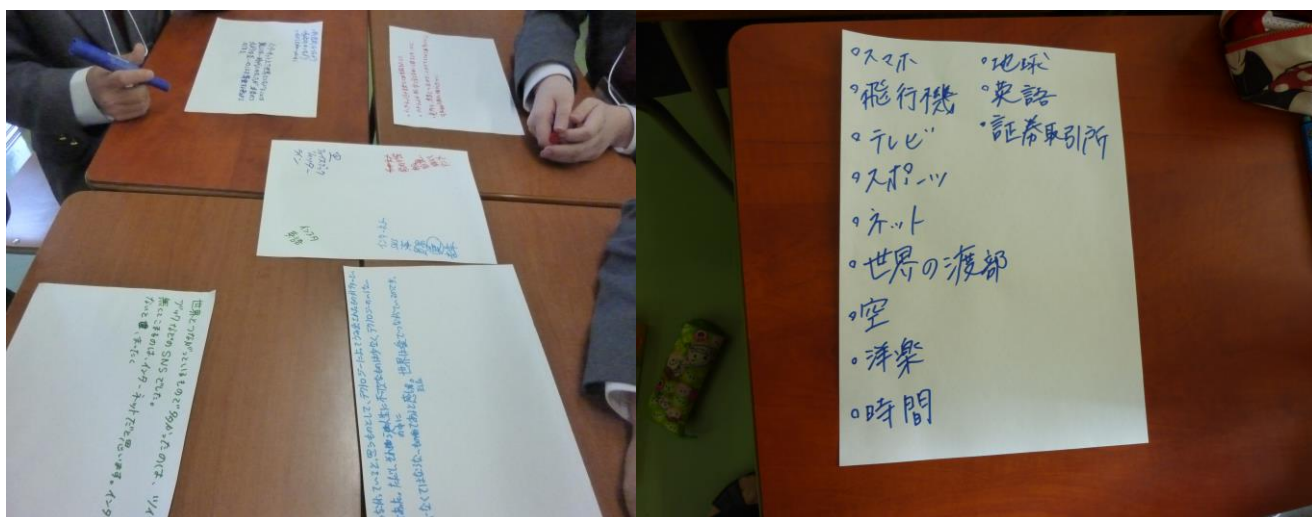


3. 自分と他者、自分と社会とのつながりをふりかえる「身の回りのものと世界とのつながり探し！」

- ① 世界とのつながり(ブレインストーミング)…身の回りの物で世界とつながっていると思うものをグループでA4用紙にできる限り書き出した。
- ② 発表…各グループから「世界とつながっているもの」を2個ずつ発表した。
- ③ まとめ…各生徒は、どんなものが多かったか、なくなると困るものはどんなものか、書き出してみてわかったこと、気づいたことは何かを、各自3つ選び、A4用紙に文章化した。
- ④ 共有…書き出した内容をグループで共有した。



【生徒成果物例】



4. 全体のふりかえり

- ① シートへの記入…各自、ふりかえりシート、目標達成シートに記入し、提出した。

☆発見したこと、気づいたこと、わかったこと

- ・1人1人、持っている視点が違うなと思いました。
- ・世界とつながっているものは身近にたくさんあると改めて感じた。
- ・日本ではそうであっても海外では違うことがあって驚いた。
- ・日本という国は、世界中の交流や物流を通して成り立っていると思った。
- ・私たちのまわりにあるたくさんの物が私たちにとって大切な存在で、1つでもなくなると困ります。
- ・クイズを通して世界の色々な国の常識を知ることができて楽しかった。

☆大切だと思ったこと、これから実行しようと思ったこと

- ・他国の文化や習慣などを知らうとすることが大切だと思いました。
- ・相手の意見を聞いて、否定的になるのではなく、肯定的にとらえて、できるだけ共感すること。
- ・世界中の文化や常識を勝手に決めつけたり、思い込みで判断したりしないようにしたいと思った。
- ・日本に留まりすぎず、世界に目を向けて、もっともっと自分の知らないことを知りたいと思いました。
- ・自分の常識を常識だと思わずに他人の意見を取り入れていくことが大切だと思いました。

第3回 体感！ワークショップ 世界と自分とのつながり～グローバル化の光と影～

開催概要

- ◆ 日時:2017年4月25日(火)7時限[15:20~16:10]
- ◆ 場所:中部大学春日丘高校 1年A組、B組、C組、本校舎2階学習室
- ◆ 指導者:NPO法人NIED 国際理解教育センター職員、本校教員 (=ファシリテーター)
- ◆ 第3回学習のねらい:
 - ① 世界と日本を俯瞰し、グローバル化による恩恵は何か、恩恵に預かっている人は誰かを理解する。
 - ② 恩恵がある一方、グローバル化した世界は多くの課題を抱えていることに気づく。

学習の流れと成果

※「F」はファシリテーターの意。

1. オリエンテーション

- ① 第3回のねらいの説明…Fが、生徒のバインダーに綴じてある資料0-1「学習のねらいとプログラム」を基に、第2回行ったこと、第2回のねらいを説明した。
- ② ふりかえり…生徒数名は、第2回で印象に残っていること、発見したことなどを話した。

2. グローバル化の光と影①—グローバル化の恩恵

- ① グローバル化の説明…Fが、「グローバル化」という言葉の定義を次のとおり説明した。
「グローバル化」とは、「人、物、お金、情報などがより遠くまでより早くより大量に行き来が可能になった時代のこと。」
- ② グローバル化の恩恵(派生図)…世界がグローバル化したことによって日本の私たちが得していること(恩恵)やメリットだと思うことをグループで協力して模造紙に派生して書き出した。



- ③ なくなったら困るもの…グローバル化による恩恵やメリットのうち、各自でなくなったら困るものトップ3に×印をつけた。
- ④ アイデアの共有…各グループの模造紙を回し読みし、各自で「自分たちのグループでは出なかったもので、共感できるもの」に☆または♡印をつけた。回し読み後、自分たちの模造紙を戻し、☆または♡印を確認した。
- ⑤ 活動のふりかえり…Fは、「個人よりグループ、1グループより複数グループで考えるとアイデアが増えること」、また、「このグローバル化した世界にあっては、どの国もその国だけで成り立っているわけではなく、私たちの暮らしや社会は、世界の様々なものとなつがっていること」を伝えた。

3. グローバル化の光と影②ーグローバル化の課題

- ① グローバル化の課題…「グローバル化した世界が抱えている課題」といえば何かグループで考え、A4用紙にリストアップした。各グループで出された課題をグループごと1つずつ発表した。
- ② 地球の数字・日本の数字…配付された資料を各自読み、印象に残った部分に下線を引いた。

4. 全体ふりかえり

- ① シートへの記入…各自、ふりかえりシート、ループリック評価表に記入し、提出した。

☆発見したこと、気づいたこと、わかったこと

- ・地球の数字プリントの「都市部の大気汚染で毎年200万人が若齢死」に驚いた。
- ・自分一人だとアイデアを出すのにかたよりや限度があるが、他人の意見を聞きながらだと色々アイデアが出る。
- ・グローバル化が進むにつれてメリットはたくさんあるものの、深刻な問題が増えるということがあった。
- ・グローバル化によって他国との交流が多くなったが、その反面、対立する問題も増えているということを知って、今もなお進むグローバル化とどのように共生していこうかと思った。
- ・世界の人々の約40%は1日2ドル以下で暮らしているということを初めて知った。
- ・先進国と途上国では貧富の差や紛争など様々な違いがあり、現実的に世界にこれだけの差があるのは悲しいです。

☆大切だと思ったこと、これから実行しようと思ったこと

- ・もっと自分の意見を出して、積極的に話すことが必要だと思った。
- ・これから大人になったら、今の日本にある進んだ技術を世界に広げることが大切だと思った。
- ・ただ便利さを追求するだけではだめだと思った。
- ・今回のワークショップを通じて、いかに自分が恵まれているかを知ることができた。
- ・エネルギーの使用量は、先進国が大部分を占めているので、こまめに電気を消すなど、エネルギーを節約しようと思った。